



# 東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

## 東アジアの‘儒教’の動きと韓日社会の儒教文化の一考察

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 東京学芸大学教育実践研究推進本部 公開日: 2024-02-07 キーワード (Ja): 東アジア, 儒教文化, 思想, 哲学, 教育 キーワード (En): Global Gender Gap, East Asia, Confucian culture, ideology, philosophy, education 作成者: 李, 修京 メールアドレス: 所属: 東京学芸大学
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/0002000190">http://hdl.handle.net/2309/0002000190</a>

## 東アジアの‘儒教’の動きと韓日社会の儒教文化の一考察

李 修 京\*

アジア言語・文化研究分野

(2023年8月30日受理)

### 要 旨

本稿は東アジアに今なお根強く影響する儒教文化について概括し、日韓の現代社会に残るいくつかの儒教的動きについて再確認するものである。道徳的規範を重んじる儒教は、東アジア地域の社会制度や家族制度に大きく影響してきた。武士や文士の仁義・信頼を貫くことや清廉潔白の精神を美意識とし、相手を慈しむ配慮の精神や敬う礼節の精神が美德とされ、儒教や儒学の精神による融和的文化を共通認識としてきた東アジア地域で宗教紛争が見られないのもそのような動きが作用したと考えられる。道徳的観念を君子の徳性として拡充し、長い間その徳目が支配知識層の規範的概念として受容されてきた儒教は韓半島や日本を含む東アジアはもちろん、18世紀のフランスやドイツなど、西欧の啓蒙的思潮や哲学・思想に影響を及ぼした。しかし、儒教文化によって形成された階級社会と老若男女間問題は一世代間・性差を巡る世相には様々な弊害も少なくなかった。本稿では儒教文化について概括しつつ、教育やジェンダーについても触れてみる。

キーワード：東アジア、儒教文化、思想、哲学、教育、Global Gender Gap

### はじめに

本稿は東アジア社会に長く影響してきた‘儒教’について概括しつつ、東アジアの中でも韓国や日本でどのような痕跡を残しているのか、その動きの中でも特に儒教の弊害として残る過熱する教育や性差について探ってみる。周知のように、儒教とは本来、孔子の教えをまとめた『論語』を基にしている道徳観念である。儒教の根本的教えは、〈仁・義・礼・智・信〉を基本理念にする五常と、集団・組織における厳格な上下関係による秩序、君主に対する忠誠心、祖先崇拜の精神、人間関係における仁義と信頼と礼節、親孝行、家庭における夫婦の役割、内実のある人の控えめな美德などを説いた五倫、即ち、〈君臣・父子・夫婦・長幼・朋友〉のあり方を軸としている。特に人としての道徳精神を重んじる儒教は、秩序と道徳的規範、そして大義名分の観念を強調し、東アジア地域の社会制度や家族制度に大きく影響を与えてきた<sup>1</sup>。さらに、武士や文士の仁義・信頼を貫くことや清廉潔白の精神を美意識とし、相手を慈しむ配慮の精神や敬う礼節の精神が美德とされ、時代とともに社会に定着してきた。これらの儒教や儒学の精神は人間の融和への共通認識とされ、融和的文化を共有してきた東アジア地域で宗教紛争が見られないのはそのような動きが根底で作用していたと指摘することもできる。また、現在も多種多様な宗教が存在する東アジアだが、宗教による過激な衝突は起きていない。むしろ、それぞれの宗教文化を享受しつつ、相手の宗教を認め合いながら共生社会を模索していると見受けられる。

\* 東京学芸大学 外国語・外国文化研究講座 アジア言語・文化研究分野 (184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1)

なお、道徳的観念を君子の徳性として拡充し、長い間その徳目が支配知識層の規範的概念として受容されてきた儒教は、韓半島や日本を含む周辺諸国はもちろん、18世紀のフランスやドイツなど、西欧における啓蒙的思潮や哲学・思想に影響を及ぼした。特に1789年に起きたフランス革命後、混沌とする社会に儒教の徳治（道徳と政治）思想が紹介され、西欧の圧倒的なカトリック教の支配に抵抗する啓蒙運動の道具になる。理性の時代を代表する啓蒙思潮は、フランスのヴォルテールらの学者たち、ドイツのカントら多くの思想家や哲学者らの識者たちを通して本格的に近代化が進むのである<sup>2</sup>。モンテスキューやルソーらは中国文明の道徳的長所とともに、君主の専制政や市民社会の発展の遅れなどの弱所も気づき始めるが、18世紀ヨーロッパで中国文明への印象や評価は帝国主義の時代となる次の世代とはまったく異なっていたのである<sup>3</sup>。西欧の思想や哲学に多大な影響を与える儒教だが、一方、東アジアでは儒教文化によって形成された階級社会と世代間・性差を巡る世相に様々な弊害を生み出し、捻じれた儒教文化の解釈によって多くの人々が抑圧されてきたことも否めない。各民族の文化や思想、政治、音楽などに重層的に影響してきた儒教だが、それらの弊害も少なくなかった。その一例については後述する韓国の儒教文化のところで触れるようにする。

### 1. 道徳規範の‘儒教’から世界に展開中の‘孔子学院’まで

‘道徳’‘祖先崇拜’‘男尊女卑’など、我々の日常の生活の中でよく耳にするこれらの言葉からわかるように、韓国や日本でも馴染んでいる‘儒教文化’は国家統治の経世済民思想の学問として知識層や支配権力層に受け入れられてきた。もともと‘儒教’は中国春秋時代の魯国（現在の山東省）の曲阜生まれの政治思想家・哲学者の孔子（BC551～479）の教えである「仁（人間愛）」・「礼（規範）」・「克己復礼」<sup>4</sup>・「天命（道徳の窮極的な根拠）」を中心思想とし、修己治人の徳治主義政治を唱えた思想である。孔子の言行録である『論語』に見られる、後世に儒教の教えを継ぐ儒者（a Confucian: a Confucianist）によって伝播した。弟子である孟子（BC372～289?, 性善説）や荀子（BC298?～238?, 性悪説）によって儒教は広く展開され、董仲舒（BC179～104?, 陰陽五行説を絡めた災異説）を重用した前漢の武帝時代には国教に位置づけられるまでになった。

周知のように、儒教の基礎經典は『論語』『大学』『中庸』『孟子』の四書と、『春秋』『周易』『書経』『詩経』『礼記』の五經がある。これらの理論書は君子（学識や人格が優れた識者）の規範を説いた必読書として広がるようになった。しかし、南北朝時代に起きた長い戦乱によって醸成された厭世的な雰囲気や疲弊していた人々の心を救ってくれる仏教や道教の教えが拡大するようになり、儒教はしばらく衰えた。北宋の時代になると儒教や仏教などの教えの長所から新たな理論（宋学と総称）が生まれ、北宋の周敦頤（1017～1073）らが唱え、南宋の朱熹（1130～1200）が万物の作用理論として‘理気二元論’の概念を加えた‘性即理’理論を取り入れた儒教の新しい学問体系としての朱子学を大成させた。その後、孔子や朱熹、孟子、そして南宋の陸象山（1139～1192）の‘心即理’理論に影響を受けた明代中期の王陽明（1472～1529）が知行合一理論など実践を重んじる思想を唱えた陽明学を開き、隆盛を極めた。しかし、明では官吏登用制度である科挙や公的な儒学として朱子学を官学化したため、朱子学が重用されるようになった。また、明末から清代には訓詁学や文獻的・実証的解釈の考証学が発展した。それらに対して儒教に基づく理論を高めようとする動きが出るものの、儒教の經典試験を通して官吏を登用してきた科挙制度が1300余年の歴史を閉じて1904年を最後に廃止され、近代教育の整備が進むとともに、長い間政治や社会に用いられてきた儒教への批判の動きが激化するのがある。特に日本による帝国主義展開への抵抗が活発になる‘五・四運動’<sup>5</sup>期には反封建主義運動とともに儒教批判が強まった。また、中華人民共和国では文化大革命期に革命に対する反動理論として儒教に対する弾圧が行われ、1973年の「批林批孔運動」<sup>6</sup>では、江青を含む四人組が、歴史上の人物を借りて政敵（周恩来）を批判する傍ら、孔子と儒教も強い批判の対象となった。しかし、文化大革命が終焉を迎えた1978年以降は近代社会主義理論の一つとして儒教の再評価が行われるようになった。

#### 1) グローバル文化戦略としての‘孔子学院’

中国の経済的発展が進むと国際社会に対する中国政府のグローバル戦略の一環として儒教が用いられ、漢語と中国文化の普及などを掲げた孔子学院が世界各地に開設されるようになった。

孔子学院（Confucius Institute）は、儒教的影響が根強く残っているソウルに海外第1号として2004年に設置

されて以来、2020年末まで全世界の162カ国541校が運営されている。2013年の習近平体制以後、一帯一路（陸上と海上の新シルクロード経済圏を形成しようとする中国の国家戦略）戦略を推進しながらその沿線国家に孔子学院を集中的に展開し<sup>7</sup>、儒教の学習より中国語の語学学校として運営している場合が多い。そのため、‘孔子’の名を用いた中国政府の政治宣伝活動の施設ではないかという懸念の声もあり、儒教文化自体に陰りを落としている現状である。一方、韓国の場合、2021年現在、22の大学と15の中・高等学校に孔子学院が設置されており、中国朝鮮族同胞の移住者の増加<sup>8</sup>や、中国との経済関係が深まるにつれ中国語や中国文化を勉強しようとする人の増加が孔子学院の増設・活用につながっている。この点、日本や欧米諸国との展開とは多少事情が異なっている。

日本では2005年に初めて立命館大学に孔子学院が開設され、2007年4月に日本を訪問した当時の温家宝首相が同校を訪問したことで話題となった。現在日本には立命館大学や早稲田大学など14の大学に孔子学院があるが、ここ最近、「同盟国である米国、自由や民主主義、法の支配といった共通の価値観を持つ欧州の国々からも廃止や情報公開を求める懸念の声が高まっている」<sup>9</sup>ため、菅義偉政権時代から文部科学省をはじめ関係省庁が連携して、同学院の運営の透明性を確保していく動きが出ている<sup>10</sup>。つまり、孔子学院は中国語や中国文化普及活動に孔子や儒教文化を使って世論を操作し、中国の国際社会における勢力拡張とその政治的影響力の強化を目論んでいる可能性を指摘する主張が出ており、現在の社会的情勢を背景に、欧米諸国に追随して日本でも孔子学院を牽制する動きが強まりつつある。

## 2) 学問重視の儒学、儒教圏である東アジアの高い学力

東アジアは古くから学問を重視し、今日は受験戦争の激しい地域として知られている。情報や知識を高めるための学問の勧めだけではなく、人脈形成と一家安泰や将来のための教育的投資も激しいため、少子化の東アジア社会では特に保護者の子どもへの教育的干渉も過熱している。それらの背景には、身分社会で学問が重んじられてきた歴史的経緯や、近現代においては人脈や出世の道具となった学問の捉え方も無視できない。

『論語』の冒頭に出る‘學而時習之 不亦悦乎(学びて時にこれを習う、またよろこばしからずや)’という有名な一節がある。学校の漢文授業で学問をする意味や重要性について触れられる際によく使われるものであり、現在でこそ汎用的な意味を以て受け止められる。しかしかつて文字の学習や学問は、儒教的身分社会における一部の高い階級の男子にのみ許された行為だった。文字の学習や学問をすることができた人もごく一部の身分の高い階級のみであった。こうして特権階級構造の再生産に用いられてきた漢文や儒学などの学びの主体は、その後、時代の変遷や社会の動きによって変化してきた。何よりも近代教育以後、女子や身分の低い人の学校教育への可能性や社会進出の増加、社会や経済の安定と少子化による高学歴志向への動きが進み、長年続いてきた‘学習する＝特権層’のイメージは近代教育期に入ってもなお続いているのである。また、近代以後の勉学の可能性が高まると、学閥や高学歴などを通して一家安泰や出世などに繋がる人脈作りの構図にもなった。これらの学閥繋がりやの動きは現代社会でもしばしばみられる。

なお、儒教文化が依然として大きな影響力を持つ東アジア地域の‘学ぶこと’への熱い動きとして一つ注目したいのは経済協力開発機構（以下、OECD）が実施する国際学習到達度調査（Programme for International Student Assessment, 以下PISAと省略）である。もちろん、このPISAは全ての学齢期の児童生徒の学力を調査したわけではないが、少なくとも義務教育が終わる15歳児の平均的学力として参考になるものである。OECDは15歳児を対象に、読解力と数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野について、2000年から3年ごとにPISAを行っており、韓国や日本・中華圏の東アジアの参加国・地域が上位を占めている。ちなみに、最新の本調査（PISA2022）の結果は2023年12月に公表予定であるため<sup>11</sup>、本稿を執筆中の2023年8月現在までに確認できる、2019年に発表された2018年度のPISA（2018年に79か国・地域（OECD加盟37か国、非加盟42か国・地域）、約60万人の生徒を対象に調査を実施）の結果を引用することを断わっておく。

表1. 〈PISA 2018 全参加国・地域 (79 国・地域) における比較〉

読解力			数学的リテラシー			科学的リテラシー		
参加国・地域	平均	順位	参加国・地域	平均	順位	参加国・地域	平均	順位
B-S-J-Z*	555	1～2	B-S-J-Z*	591	1	B-S-J-Z*	590	1
シンガポール	549	1～2	シンガポール	569	2	シンガポール	551	2
マカオ	525	3～5	マカオ	558	3～4	マカオ	544	3
香港	524	3～7	香港	551	3～4	エストニア	530	4～5
エストニア	523	3～7	台湾	531	5～7	日本	529	4～6
カナダ	520	4～8	日本	527	5～8	フィンランド	522	5～9
フィンランド	520	4～9	韓国	526	5～9	韓国	519	6～10
アイルランド	518	5～9	エストニア	523	6～9	カナダ	518	6～10
韓国	514	6～11	オランダ	519	7～11	香港	517	6～11
ポーランド	512	8～12	ポーランド	516	9～13	台湾	516	6～11
スウェーデン	506	10～19	スイス	515	9～14	ポーランド	511	9～14
ニュージーランド	506	10～17	カナダ	512	10～16	ニュージーランド	508	10～15
アメリカ	505	10～20	デンマーク	509	11～16	スロベニア	507	11～16
イギリス	504	11～20	スロベニア	509	12～16	イギリス	505	11～19
日本	504	11～20	ベルギー	508	12～18	オランダ	503	12～21
オーストラリア	503	12～19	フィンランド	507	12～18	ドイツ	503	12～21
台湾	503	11～20	スウェーデン	502	15～24	オーストラリア	503	13～20
デンマーク	501	13～20	イギリス	502	15～24	アメリカ	502	12～23
ノルウェー	499	14～22	ノルウェー	501	16～24	スウェーデン	499	14～24
ドイツ	498	14～24	ドイツ	500	16～26	ベルギー	499	16～24

〈出処：https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2018/01\_point.pdf (文部科学省及び韓国教育部サイト参照)。なお、'B-S-J-Z\*' は '北京・上海・江蘇・浙江' 地域を示す。〉

先に示したPISAの学習到達度の調査結果を見ると、日本、中国、韓国、香港など儒教文化圏の国や地域が上位を占めている。その背景には様々な要因が考えられるが、とりあえず、儒教文化圏という共通点があることに注目したい。長い儒教の歴史を持つ国や地域の子どもの学習到達度が高いのは、第一に、儒教体制の中では、知識(学問)の所有・出世(社会的地位)・富(生活の安定)がワンセットであったことと密接に関係していると思われる。特に中国や韓国のように科举制度を採用していた国では、学問の成果を蓄積することは官職につく(就職する)ことと直結しており、学者=政治的・社会的指導者であった。社会的に尊重され、安定した人生を望むなら、まず、勉学に励むべきという意識・文化が定着してきたのである。第二に、学問(知識)は人格形成の基礎であるという儒教の考え方・文化・教育観の影響下に置かれてきた東アジアの国や地域の子どもたちが勉学に励むことは自然な結果である。また、知識が人格形成の基礎であるという考え方は、近代学校教育の基本方針と軌を一にしており、こうした近代学校教育を先に始めていた日本の影響が他の東アジアの国に及んだとも考えられる。

## 2. 日本の儒教の動き

日本における儒教の動きについては膨大な研究や紹介文献があるため、ここでは概略しておく。

近代の日本文化を西洋社会に知らせてイメージをつけた人物として新渡戸稲造<sup>12</sup>を忘れることはできない。新渡戸が38歳の時に、封建社会の日本の武士階級の倫理的・道徳的体系について、仁・義・礼・忠義・誠・名誉などを重んじる儒教的概念に仏教・神道の要素を取り入れて英語で書き上げた『*Bushido: The Soul of Japan*』は当時、世界各国語に翻訳されるほどベストセラーとなった。『武士道—日本の心—』は新渡戸稲造がボン大学に留学中、法学の教授から「宗教教育のない日本では、道徳教育はどのようにおこなわれているか」という問に端を発して書いたものである<sup>13</sup>。だが、武士階級だけではなく、広く民衆の生き様や人格形成に影響する道徳規範を述べており、近代国家形成が進む20世紀初頭の日本社会に民族的・文化的アイデンティティーに繋がる強烈なインパクトを与えた。諸外国でも『武士道』を通して‘The Soul of Japan’を学ぶ人が圧倒的に多かった。実際、筆者の受講生には『武士道』に憧れて日本に来た西洋からの留学生もいた。

日本に儒教が学問として伝わったのは4世紀の末頃まで遡る。応神天皇の時代に百済王の命で王仁博士<sup>14</sup>（4世紀末～5世紀。韓国全羅南道の霊岩生れ）が『論語』十巻と『千字文（基礎漢字）』一卷をもって渡日したのがその始まりだという。その後、513年来日した五経博士（儒教の経典研究学者）によって体系的な儒教が政治思想に取り入れられ、大学や国学を設けて官吏養成の学問として発展するようになった<sup>14</sup>。



（写真：左は王仁博士の故郷で、博士が日本に向かった場所と言われる韓国全羅南道の霊岩（ヨンナム）。2018年12月9日撮影。右写真は大阪府史跡・枚方の王仁博士墓。2019年3月17日撮影）

その後、鎌倉時代に禅僧の俊菴<sup>しゅんじょう</sup>によって‘性即理’理論を取り入れた朱子学が伝わると、南朝が正統性を主張する理論の根拠となり、五山を中心に発展した。江戸時代になると、仏教とは一線を画して、学問（儒仏分離）としての儒学を形成する動きが高まった<sup>15</sup>。

江戸初期に藤原惺窩<sup>せいこ</sup>の弟子であった林羅山が幕府の儒官となり、五代将軍の徳川綱吉は儒学の振興を図るため、元禄3年（1690）湯島の地に聖堂を創建し、林家の廟殿と家塾を湯島聖堂に移す<sup>16</sup>のである。為政者にとって民衆支配の理念に合致していた朱子学は徳川幕府の官学として、封建制度で身分階級を明確にする幕藩体制の政治理念になったのである。一方、名分論を重んじた山崎闇斎によって神儒一致論による儒教神道が唱えられ、幕末にはその系統から尊王攘夷論が生まれ<sup>17</sup>、近代国家形成に繋がる明治維新に影響を与えた。江戸時代にはこのほか、陽明学派、古学派、考証学派、折衷学派など、多様な学派が林立した。



視聴率は27%という)にしる、『イ・サン』にしる、儒教的価値基準が反映された台詞があふれていることが要因だろう。』<sup>19</sup>と指摘している。

韓半島での儒教は貴族社会の秩序を維持する社会道徳として、高句麗・百濟・新羅の三国時代、みな重要視してきた<sup>20</sup>。高麗時代に入ると、国家の発展を祈願する護国仏教が勢力を拡大したが、朝鮮時代では儒教は国教となったため巨大権力化した仏教勢力は排斥され、儒教を国家運営の政治システムに取り入れた王道政治思想を展開してきた。そのため、儒教は朝鮮の社会や風土に見合った朝鮮儒教に変化しつつ、民族性形成に大きく影響するのである。次第に儒教思想、特に朱子学は、日本同様、為政者の集権的政治体制を展開する支配論理と合致し、階級権力の‘政治党争’（各党や派閥との闘争）に用いられるようになる。そして、朝鮮後期に入ると西洋列強と日本勢力が角逐する激動の時代に入り、その先を読めない両班政治の思想的硬直で、朝鮮王朝は国際情勢の荒波に吞まれて亡国に向かうのである。但し、長い間儒教の階級支配体制によって腐敗し多様な弊害が露呈されてきたものの、列強と権力層の利害が錯綜する近代化と植民地時代を経る過程で形成される民族的抵抗意識を伝統的儒教文化に繋ぎながら朝鮮儒教はその没落を免れて来たのである。その後、日本の植民地統治支配から解放され、1950年から3年間の同族間戦争（韓国戦争、6・25戦争、朝鮮戦争とも称す—筆者注）と世界最貧国からの立ち上がり、高度経済成長期に伴う社会の目まぐるしい変化の中、儒教は兵役や組織階級に根強く残るものの、進む少子高齢化と先端科学の発達および情報の氾濫等によって、社会や家族の構図は大きく変化するようになるのである。OECD最低の出生率（2023年現在、一人の夫婦が生涯出産する子どもは0.78人）に、高齢者の100歳時代を目前に、韓国社会は儒教的価値観の存続より国家を動かせる動力確保が最優先課題となり、1990年代より積極的に国の労働力となる中国朝鮮族や外国籍労働力を受け入れるようになるのである。即ち、韓国式儒教の伝統が共有できない国の構成員の増加が現実になって来たのである<sup>21</sup>。そのような動きの中、21世紀に入ると、2001年にユネスコで採択された「文化的多様性に関する世界宣言」に触発され多様な儒教文化の保存への動きがみられるようになる。換言すると、少子高齢化による世代間格差と男女間格差、教育格差などに加えて、新たな外国の文化を持つ多文化出身者との共生によって生じる様々な社会的衝突や課題<sup>22</sup>を目の当たりにしつつ、家族主義を重んじてきた伝統的儒教文化への再考察やそれらの歴史を人類遺産として位置づけようとする動きが台頭するのである。一例だが、2022年の8月には儒学の地とも言われる安東<sup>アンドン</sup>で‘世界儒教文化博物館’が、同年10月には論山<sup>ノンサン</sup>で‘韓国儒教文化振興院’が開設され、巨大な敷地に莫大な資金で造成されたこれらの儒教施設は、中国ら国内外文化団体の協力を受け、韓国伝統文化と儒教文化を世界遺産として標ぼうする象徴的施設である。韓国社会はこのように、儒教文化の伝統を保存・継承しようとする動きと、儒教の文化を共有してこなかった新しい社会構成員との共生社会になりつつあるのが現状である。

以上の流れを踏まえつつ、長い間、倫理規範の統治理念として社会に影響してきた儒教の流れが今日の韓国ではどのように位置づけられているか、もう少しその細部に注目してみる。

## 1) 朝鮮時代の儒教の特徴

儒教は三国時代の封建君主国家体制の理論的支えとして、高麗時代（918～1392）の仏教勢力の隆盛の中で共存した。『三国史記 高句麗本紀』を見ると、第17代の小獸林王<sup>ソスクリムワン</sup>（在位は371～384）の頃に律令が作られ、大学による子弟教育が行われていた。高麗時代から朝鮮時代（1392～1897）に入ると本格的な中央集権的君主官僚システムが整備され、官僚登用試験制度であった科挙制度を通して儒教的官僚登用が行われるようになる。なお、儒教の徳治政治による国家理念を展開する朝鮮儒教の特徴<sup>23</sup>を概括すると次の通りである。

- ①文臣優位の両班<sup>ヨンバン</sup>（士大夫、文班と武班を称す—筆者注）は支配階級として強い政治力を発揮したが、兵役免除の特権を有し、官職以外の農工商のいかなる職業にも従事しなかった。儒教（朱子学）教育は中央では四学、地方では郷校<sup>ヒョングョ</sup>の教育を経て、成均館<sup>ソングンガン</sup>に進み、科挙試験に合格したら文臣の地位を確保。
- ②朝鮮初期の王朝体制作りに貢献した経世治国的朱子学<sup>25</sup>を重用し、性理学＝道学が尊重された。吉再<sup>キルチエ</sup>が郷里の慶尚道（嶺南）で道義を講義し、士林を発展させ、趙光祖（朝鮮道学の祖と称される）や李退溪（朝鮮の朱子と称される）などを輩出。
- ③16世紀後半に陽明学が入るが、時代的には朱子学が全盛期を迎えていた。党派争い<sup>26</sup>にも儒学者がしばしば登場する。



- ④厳格な身分階級（兩班<sup>チュンイン</sup>、中人<sup>サンミン</sup>、常民<sup>チョンミン</sup>、賤民<sup>チョンミン</sup>）と家族制度が設けられ、国は〈三綱行実図〉に基づく孝子・忠臣・烈女を表彰するほか、男尊女卑となる男女の役割分担も強調。
- ⑤18世紀に入ると実際の学問研究と言うべき社会改革の学問として実学が生まれた。田制改革や社会制度・教育改革、生産技術の改良、産業振興策、中国と西洋の学問の研究や自国の実態調査（朝鮮歴史、地理、言語研究）など、広範囲な研究が行われた<sup>27</sup>。社会における学問的実践を試みた実学には、洪大容<sup>ホンデヨン</sup>・朴齐家<sup>パクジエガ</sup>・丁若鏞<sup>チョンヤギョン</sup>・金正喜<sup>キムジョンヒ</sup>などの当代を代表する実学者が活躍した。
- ⑥理と道義に厳しい朝鮮儒教は、19世紀以降の列強の侵略に対して衛正斥邪<sup>ワイジョンチョツツァ</sup><sup>28</sup>思想として機能し、特に朝鮮の「自主独立」を掲げながら実際は侵略してくる日本を厳しく糾弾し、義兵闘争の先頭に立つ、道義と抵抗の儒教となった<sup>29</sup>。

為政者の政治的概念として取り入れられた朱子学は、祖先崇拜、法事、結婚式などの様々な通過儀礼・儀式などにも深く浸透し、既存の伝統社会と相容れながら人間の融和・仁義・信頼関係・家族の和合を重んじる道徳的・社会的規律として拡大して行った。朝鮮時代の後半になると家父長制の確立による女性の自立性が厳しく制限されるようになり、男尊女卑を含む男女格差の弊害が一層著しく顕われてくるのである。

## 2) 朝鮮儒教の基本理念と諸問題

高麗時代の仏教は社会的・政治的動きによって勢力が拡大されたため、朝鮮王朝時代からは仏教勢力を弱め、代わりに社会秩序を保たせる道徳として儒教が国策に取り入れられた。600余年以上、社会に影響を与え続けてきた儒教は、主に「三綱五倫<sup>サムガムオリユン</sup>」思想を基本理念とし、兩班、中人、常民、賤民の厳しい身分制度を設け、学問を重んじ、血縁・知縁・学縁による社会的関係を築いてきた。農耕社会における父系・家父長制（男性の社会的役割と女性の家庭的役割）に加えて、年寄りや目上に対する礼節と誠意を尽くすのが人の道理だという封建的社会概念が定着するようになった。なお、三綱五倫の「三綱」とは、臣下の君（王）に対する忠誠を表す「君為臣綱<sup>クニウイシンガム</sup>」、子の親への孝行を表す「父為子綱<sup>フウイゾガム</sup>」、妻の夫への烈（助力・支え）を表す「夫為婦綱<sup>フウイブガム</sup>」の三つの綱領を称する。また、「五倫」とは五つの倫理として、忠義の「君臣有義<sup>クニシニウイ</sup>」、親孝行の「父子有親<sup>フウゾウチン</sup>」、夫婦・男女の役割の「夫婦有別<sup>フウフウウベツ</sup>」、上下関係の秩序を意味する「長幼有序<sup>サンウヨウソ</sup>」、信頼ある友情の「朋友有信<sup>フウユウウシン</sup>」を表す。一方、人としての道理を語った五常には相手を思う「仁」、利害よりも義理を重んじる「義」、相手を敬う「礼」、条理に見合った思考の「智」、信頼で人間関係を行う「信」があり、これらが人間の道理となる儒教的教えであった。これらの教えを社会的規範とした朝鮮では、父親を中心とする家族社会が形成され、支配側に忠誠を尽くし、自分よりも他者を気遣う配慮の精神が美徳とされるようになった。為政者は、民衆を国家へ従属させることで政治的安定を図ろうとした。その一方、儒教は支配層と被支配層との格差を明確にし、一部官僚階級の学問を重視する傾向は強まったものの、大衆の教育や社会活動の機会を阻むことに繋がるなど、様々な弊害が生まれた。次の一部からそれらの確認ができる。

### ① 三従之道<sup>サムジュンノチ</sup>

兩班を中心とした朱子家礼が行われ、女系家族の排除、女性の財産相続の制限が厳しくなり、女性に対する差別が著しくなった。この三従之道とは一人の女性が生涯を通して3人の男性に従順であるべきであり、結婚前までは父、婚姻中は夫、夫の死後は長男に従うことが女性の道理であるという観念である。女性は貞節を貫き、一人の異性のために操を守る一夫従事<sup>イツフジュウジ</sup>が強要され、女性の社会活動や人間関係は厳しく制限され、男尊女卑や女性差別に繋がるのである。

### ② 夫唱婦隨

夫が唱えることに妻が従うという、家庭内の秩序と夫婦の和合を道理とする観念だが、従順で良妻賢母が美徳とされ、女性蔑視や家庭内暴力（DV）などを耐えしのぶ女性哀史が社会的に強要された。これらの観念は男尊女卑の弊害に繋がり、現代家庭でもその影響が見え隠れする。

### ③ 男女七才不同席<sup>ダンジョナナサイフドウセキ</sup>

男女の区別が厳しく、男女7歳になったら同席に座ってはならないという教え。当時は早婚であったため、

長男は早くから家父長になることの大切さや五倫の行いを身につけ、女の子には操や従順、家庭の和合を教え、嫁や母としての役割を早く意識させるため。

④ 七去之悪ちるごじあく

社会生活が許されなかった既婚女性を脅かす離縁の原因になる七つの条目で、七出之悪ちるちゆるしあくとも称する。結婚したらやってはいけないこととして、夫の両親への親不孝（舅姑に従わない）、子ども（長男）を産めない、姦通などの行為（淫行）、夫の行為に対する嫉妬、悪い病気（悪疾）、多言（口舌）、窃盗の七項目が挙げられた。特に、子孫を残すことが重要な役割であった女性にとって息子出産は極めて大事とされ、無子<sup>30</sup>の場合、いわゆる代理出産に似たシバジ（種受け）を呼ぶ場合もあった。なお、七去之悪に触れたとしても、戻る実家がなく、夫婦揃って夫の親の喪に服した場合、そして、嫁いできた時は貧乏だった家が七去之悪に触れた時に裕福（繁盛）になった場合は「三不去」として妻を追い出すことはできなかった。

⑤ 烈女門よるによむんの根底にある村の名誉と陰の村八分

統一新羅時代では法的に男女平等に等しかったが、高麗末期から儒教の影響が強くなり、朝鮮王朝時代には支配層の政治的理念として性理学が定着するようになる。政治的統治をより円滑に行うための儒教理念が社会的規範として普及するとともに、家父長主義に基づく男系社会を強化することと、両班社会の秩序を保つために女性の社会的・家庭的役割の分別が強要され、女性の地位は極めて低くなった。一度嫁いだ女性は一夫に誠意を尽くして妻・嫁としての道理をまっとうするとともに、貞操を守り、夫の如何なる行為にも忍耐する淑やかさが女性の美德とされた。結婚後、生涯を通して夫や夫の家族の為に尽くした女性を‘烈女’と呼び、村にその烈女を讃える標識の門を立てて村の誇りとし、女性の貞操観念を美德とした。なお、長男の嫁という言葉に象徴されるように、儒教では祖先崇拜の儀式が強調され、葬儀や法事などの場合、長男の嫁が膨大な仕事を担った。しかし、多くの女性が高学歴となり社会進出している近年、女性が家事や子どもの出産や養育などの負担から結婚を忌避する傾向にあり、女性の半数以上が結婚は選択の一つだと考えるほど時代は大きく変わっている。

### 3) 男女の格差と Global Gender Gap

これらの内容からも確認できるように、男尊女卑思想が強く作用し、韓国戦争までに女性の社会進出や社会的活動は極めて限られていた。しかし、解放後の混乱の中で生きる戦略としての女性の社会進出、多様な教育の機会、少子高齢化に伴う労働力不足などで女性の活動も国の運営上、幅広く門戸が開かれるようになった。しかし、今日のように性の多様性や女性の社会進出が当たり前の時代だとしても、かつての儒教の弊害を払拭し切れていない企業や組織における女性職員への差別も存在する<sup>31</sup>ため、人権・共生政策の一環として外国人住民との共生政策とともにそれらの問題に積極的に取り組んでいくことが韓国の課題になっている。

ところで、2006年からスイスの非営利財団である世界経済フォーラムが毎年、経済、教育、保健、政治の四つの分野毎にデータをウェイト付けしてジェンダーギャップ指数（Gender Gap Index: GGI）を算出しているが、これらの統計を見ると、先進7か国（G7国家）の一つである日本、アメリカと対立する巨大国家である中国、K-popなどで世界の大衆文化をリードする国の一つ・韓国の性差の現状を垣間見ることができる。むしろ、それらのカテゴリだけでその社会を総体的に評価することはできない。兵役・軍隊を有する国の特徴（ミリタリズム）などもあるため、一概にして全てが儒教の弊害だとは言いきれない。だが、明らかに‘男女’が共存する国だという側面から他の国と比較してみると、これらの韓国・日本・中国のジェンダーギャップ指数は決して先進の数値だとは言えない。日本の内閣府でも「2022年の日本の総合スコアは0.650、順位は146か国中116位（前回は156か国中120位）でした。前回と比べて、スコア、順位ともに、ほぼ横ばいとなっており、先進国の中で最低レベル、アジア諸国の中で韓国や中国、ASEAN諸国より低い結果」<sup>32</sup>となっていることが指摘されている。なお、韓国と日本と中国のGGIランキングを確認すると次の通りである。

表2. 東アジアのグローバルジェンダーギャップのランキング (世界経済フォーラムより)

年度	1位	韓国	日本	中国	対象国数
2006	スウェーデン	92	79	63	115か国
2007	スウェーデン	97	91	73	128か国
2008	ノルウェー	108	98	57	130か国
2009	アイスランド	115	101	60	134か国
2010	アイスランド	104	94	61	134か国
2011	アイスランド	107	98	61	135か国
2012	アイスランド	108	101	69	135か国
2013	アイスランド	111	105	69	136か国
2014	アイスランド	117	104	87	142か国
2015	アイスランド	115	101	91	145か国
2016	アイスランド	116	111	99	144か国
2017	アイスランド	118	114	100	144か国
2018	アイスランド	115	110	103	149か国
2019	アイスランド	108	121	106	153か国
2020	アイスランド	108	121	106	153か国
2021	アイスランド	102	120	107	156か国
2022	アイスランド	99	116	102	146か国
2023	アイスランド	105	125	107	146か国

(「World Economic Forum (世界経済フォーラム)」より筆者作成。但し、朝鮮民主主義人民共和国、アジア初の同性婚を認めた台湾についてはデータが記されていないため、ここではグローバルジェンダーギャップで表す統計を優先する。)

これらを見る限り、2006年代に入ってから東アジアのGGIは上位に至っていないのが明確である。この三つの国では2008年の中国の57位が最も高いが、2017年からは中国も100位以下になっている。日本は最初の統計を取った2006年に79位だったが、2012年からは100位以下、2023年には146か国中125位になっている。つまり、ワーストの順位に近いこの指数では決して世界的先進国として自負することはできないといえる。韓国は2008年以降、ずっと100位以下であったが、2022年に99位に一度戻っている。しかし、いずれにしろ、これら東アジアの三つの国は世界でも有数の経済文化大国として評価されている国々であり、少子高齢化の共通課題を抱えて女性の社会進出も進んでいるはずである。だが、結果的には政治的参加(政治家の男女平等率を含む一筆者注)や経済・教育活動、健康保健面では世界水準とは程遠いということになっている。これらの問題点の分析と是正・実践方案を相互協力して模索することこそ東アジアの改善と発展はもちろん、各国の発展に繋がることであろう。なお、トップのスウェーデンやノルウェー、アイスランドの政策や市民力、トップの特徴などを分析し、積極的に学習と実践を行うことも改善への必要作業になるだろう。

#### 4) 現代韓国社会の課題

韓国の出生率は現在、‘人口絶壁’と比喻されるほどの世界最低(2023年現在、0.7人)レベルであり、既に赤ちゃんの産声が消えた地域も多いため、外国人労働者がいなければ韓国の労働現場は回らないのが現状である。地域によっては多少の差はあれど、上記の少子化とともに高齢化も進んでおり、物質的に不自由なく豊かに育った子どもたちの多くは個人主義的な傾向が著しく、他者配慮が以前に比べて乏しい。また、親の高学歴化は子どもの高学歴志向に繋がり、海外留学経験者や外国からの帰国者も増加している。一方、高度な情報通信技術の発達と先端機械産業の発展で社会が急変する中、それらを使いこなせない高齢者層と若者との世代間

格差も激しく、年齢差が広がるほど対話の機会も乏しくなっている。さらに、近年の韓流ドラマや映画の中で扱う華麗な上流社会や高級志向は若者のブランド欲求を刺激し、物的虚栄心に浸った若者や自己中心的思考から行動する若者の増加が社会問題化している。そのため、他者を敬ったり尊重すること、謙遜・謙讓の美意識が希薄しつつある社会になっていることも否定できない。その一方で、儒教文化の長所や時代への改善を通して誰もが暮らしやすい社会を促す動きも出ている。ここでは現代韓国の儒教文化の一例を紹介しておく<sup>33</sup>。

### ①教育、そして昨今の教育現場事情

学問を重んじてきた朝鮮の儒教は、日本の植民地時代や韓国戦争の波乱を経て‘韓国式儒教化’してきた。中でも教育においては、それまでの学問そのものというより、一家安泰や出世のための学閥・人脈作りに影響を与え、夫や子どもの出世のために母親・妻の役割も際立つようになった。少子化・核家族化・経済的安定・保護者の高学歴と高所得化により、熾烈な受験戦争に携わる教育ママ層<sup>34</sup>の活動をより刺激する環境となった。最近の児童生徒の親は共働きが多く、特に寛容さの希薄とともに、現代社会における子育てや受験支援など‘一人多役のスーパー親’が少なくない。多人数家族時代とは違って少子化を極める時代、保護者の自分の子どもに対する関心や愛着も格別である傾向に、さらに保護者自身の社会生活や家庭環境・家族関係などから来るストレスに、更年期障害などの体調不良が重なると、子どもの学校でのトラブルに対する学校側や教員の対応に敏感になりやすい。特に他学校での校内暴力発生などのニュースでも流れれば不安要素が生じ、事故の経緯や原因に満足いく答えが得られない場合、保護者の不満の矛先は苦情担当の教員や担任に向かい、子どもや教育が好きで教職を選んだ教員は、保護者の高圧的態度<sup>35</sup>や執拗な連絡などから精神を病み、保護者との信頼関係が得られないまま命を捨てるまでになるのである。その象徴的な出来事が2023年7月18日に発生した。ソウル瑞草区（ソチョグ）のソイ初等学校（小学校）で在籍2年目の23歳の若手教員が自死し、韓国の夏を揺るがす事件となった。自死したB先生は、一年生担任を担って2年目であったが、26人クラスの児童間の小競り合いなどで少なくとも10人の保護者からの苦情相談に対応していた。その頃、児童間の鉛筆によるケガで、加害児童の母親から教えてもない個人携帯番号に抗議電話が続き、その加害児童の父親の来校抗議が続くと、B教員は大きな衝撃を受けたのだとメディアは見ている<sup>36</sup>。

まだ学校現場に十分慣れていない新米教員が教職の夢が破れたことに対し、日頃過度な保護者の苦情・抗議に苦しみ、政府や学校側や管理職から守られない現状に鬱憤を吐露する全国各地の教員が夏休みのソウル市に集合し、政府への対策方を要求する大規模デモを行った。その後、自死原因を調査することなく、警察当局は自死したB教師の私生活上の悩みが死因だという言い訳で捜査をしない動きであった。しかし、メディアや市民たちからの暴露が続く、その保護者の父親が検察捜査官、母親が警察幹部であることが明らかになり、威圧的動きと死に至った原因調査を揉み消そうとしたのがその職業乱用であることに憤怒し、数万人規模の抗議デモが相次いだのである。



(写真：全国各地の教師関係者から自殺教員を哀悼する花やメッセージがおかれたソイ初等学校の前の風景。2023年7月21日撮影。写真は韓国の延世大学教育研究所のC博士からのご提供)

また、その直後も保護者の苦情相談役を担っていた数人の若手教員の自殺が続く、児童・生徒を持つ親による感情的攻撃やTPOを問わない執拗な連絡攻勢など、親のストレス発散の捌け口と化する教員に対する保護・対策方要求を訴えるデモが続いた。その結果、現場の教員の教育権を守るため、政府、とりわけ教育部は2023年8月17日に教員の‘教権（教師の教育権と教員権威。外部の干渉などにとらわれず自主的に教師が自

由に教育できる権利」と、児童・生徒の学習権を保障する‘学生生活指導に関する告示案’を発表した。同年9月の秋学期から実施する予定である。なお、これらの教育現場に関わる諸問題は多発しており、詳細は別の機会にまとめて分析を試みたい。

ところで、放課後教育（私教育、塾など）も過熱し、塾講師にもランクがつけられるなど、巨大塾産業<sup>37</sup>が受験戦争を支えている構図となり、OECDの中で私教育費が1位になっている。少子化で公教育の拡大・改善が進む中でも私教育を受ける児童生徒は増えている。一方、社会の多文化化で家庭事情も多様かつ複雑になり、不登校や引き籠もり対策としてオルタナティブ・スクール（代替学校）も注目されている。さらに、早期英語留学や国内英語教育なども激化し、度重なる教育改革案が試行されるものの、IT社会で成長する青少年（Net Generation）のネット中毒問題や、留学からの帰国生の進路問題、兵役問題も教育に関わり、韓国社会の改善すべき課題になっている。

## ②「姓」にみる家父長制

家父長制が強く残る韓国は古くから自分の出自を表す「姓」＝「家系」を重んじ、一家の始祖から全家族（昔は男子の名前だけを記録）が記録された族譜（家系図一筆者注）を通して一族の一員を誇りにする家も少なくない。今でも相手から最も信頼を得るためには、「姓を変えても良い」といった誓い方をする。夫婦別姓で子どもは父親の姓を名乗ってきたが、最近では、離婚や再婚家庭の増加など、家庭事情も複雑になっているため、2008年1月に戸主制を廃止し、母子家庭では母親の姓をつけたり、再婚家庭の夫の名字にすることが可能となった。因みに、2015年の統計庁資料によれば、韓国には「金」「李」「朴」をはじめ、伝統的な漢字姓は286種類だが、近年、外国出身住民らの姓が増え、2015年現在の韓国には計5,582の姓（漢字のない姓は4,075個）があると言われる<sup>38</sup>。なお、卑賤な職業を称することから身分階級の低い名字として「天邦支竺馬骨皮」を差別的に扱ってきたが、現代ではさほどこだわることはなく、むしろその人の実力を優先する傾向である。

## ③食文化

今やK-foodとして、ユーチューブなどのSNSを通して韓国の様々な食べ物や食文化、食卓マナーなどが世界的に紹介されているが、それらに触れていない人にはその多少異色的な文化に驚くかも知れない。最近、韓国人の来日が増加しているが、日本ではおかずの数やおかわりのサービスが物足りないと言う人が多いはずである。戦後の廃墟から‘漢江の奇跡’と呼ばれる経済発展を遂げた韓国は、いまやGDP（国内総生産）の世界第10位であり、欧米資本の大型デパートやスーパーの進出など、世界各地からの物流で、豊かな飽食時代を迎えている。ご飯と汁のほかに、おかずを多く取るため、韓定食などの食堂では、手頃な値段で10種から40種前後のおかずが味わえる。これらの豊かな食卓文化は儒教社会における身分の高い両班らの文化から受け継がれており、それが現代物流と経済的發展にともなって一般化しているものもある。なお、食事の際、お椀や皿は食卓においたまま食器は持ち上げず、汁気のあるものは匙で、他のおかずは箸で取るのが一般的であり、食事の際に口で音を出さないのが礼儀になる。食事は目上の方が先に匙を取ってからするのが、最近では家族の生活パターンも多様化し、食文化も変化している。なお、祖先崇拜の法事や正月のような名節の場合、女性が料理や掃除全般を担ったが、女性の社会進出や経済活動が増えているため、家事労働などは家族で分担している傾向である。

## ④飲酒文化

古くから「飲酒歌舞」を好む韓国人の両班の飲食文化は豪快かつ道楽的だといえる。酒文化は今でもドラマや映画に欠かせない要素だが、以前のようなOECDトップレベルでの飲酒文化ではなくなっている。今の韓国では焼酎やビールの他、濁り酒（マッコリ）や民族酒（地酒）、ウイスキー、そしてポリフェノールなど健康を意識したワインや、漢方薬剤で作った薬酒の人気も高まっている。また、各地方の地酒の銘柄を楽しむ人も増えており、酒を通して人間関係を築いたり、ストレスを発散する人も多い。もちろん、飲酒運転は社会的に厳しく罰則を受けるため、酒を飲んだ際は代行運転を頼むシステムが定着しつつある。

そもそも酒を飲む意味や目的は、「酒は天の道と地の徳を自覚するのに必要な飲料として、一つの壺に酒を入れてその場の人たちと共飲みをすることで神と人間が一心同体になる」<sup>39</sup>のであり、「酒（陽）を飲む時に

は必ずおつまみ（陰）が提供され、これに礼と樂を結びつけることで飲酒の際に守るべき饗宴（祭事）儀礼が誕生した。」<sup>40</sup>と言われ、法事や通過儀礼・儀式には酒が欠かせない。

様々な点で目まぐるしい変化を見せる今の韓国では通過儀礼や儀式も時代に合わせて合理的に変化しているが、それでも酒の場になると、‘性’や上下関係などにかかわることが多々ある。世界各地で、宴席での接待、踊り子などに女性が従事させられた歴史は周知のとおりである。貴族支配階級文化が強かった分、今でも韓国の飲酒文化には儒教の弊害的要素が多分に存在する。例えば、一般の女性は両親や兄弟、夫、恩師、部下などには酒を注いでもよいが、そのほかの男性に酒を注ぐことは好ましくないとされてきた。同じ男性同士でも目上の方が酒を注いでくれば、両手で酒杯をとって、少し体を斜め後ろ向きにして相手に飲む顔を見せない習慣が今でも残っている。タバコも目上の方が同席の場合、断って吸うか、見えないところで吸うのが礼節とされている。このような習慣は若者層でもよく見られるが、女性の社会進出と経済活動が進み、健康管理に対する社会的意識が高まっているため、以前の徹夜暴飲の飲酒文化は減少している。

### おわりに

以上、東アジアにおける儒教の台頭と展開、日韓の儒教的特徴や動向、教育とジェンダーに関する影響などを掻い摘んで述べてみた。中でも、本稿を準備中の2023年7月に発生した若手教員の自死問題について多少のスペースを割いた理由は、筆者が教員養成大学に在籍し、多くの教員養成に携わってきた経緯から、その事件を単に数行で紹介することができなかつたからである。教育実習から採用試験、そして教職に就くまでの数々の努力と涙、希望に満ちた笑顔で教育現場に向かった多くの教え子たちへの心配が胸を過るニュースであった。子どもが好きで、自分らが勉強した学習内容を児童・生徒たちに教えたいという夢を抱いて学校現場を選んだ新米教員たちが挫けた時、どれほどの大人たちが手を差し伸べて助けてくれるのだろうか。保護者と学校側を繋ぐ教育関係機関や管理職たちの役割は充分機能しているのだろうか、韓国で続く教員たちの自死ニュースから、学校側と保護者側の対立構図ではなく、相互信頼関係を構築するためのプロセスと、保護者の苦情相談役にはもっと社会的経験を積んだ相談専門の教員Teamないし退職教員の活用などの工夫が必要だと強く思った次第である。

なお、本稿で詳細を割愛したが、韓国の儒教文化は社会のあらゆる所に影響をおよぼし、今でも上述した文化のほか、兵役や就職、結婚などの儀式はもちろん、映画やドラマ、スポーツや芸能・様々な芸術分野、メディア界などにも儒教的影響が色濃く残っている。これらを知ることで我々が歩んできたアジアの儒教的秩序や長所、短所などについて確認することができる。

情報・通信・交通・産業技術の高度発展に伴う物質優先主義社会に、少子高齢化、教育・家庭・青少年問題、誤った情報の氾濫、人々の移動などによる世界共通の社会問題が浮上している。持たない弱者への配慮の精神が欠けて、礼節や道徳や人間の情の希薄化とともに、自己中心的利己主義が主張し合っているドライな社会になって久しい。

AI時代の到来に喜んでいる人も多いが、社会や歴史を生きる主体は‘人’以外にいない。人が愛を以て人の道徳や配慮（気遣い）や礼儀で接し、社会的秩序を守り合い支え合ってこそ人間社会が成り立つのである。儒教は人類が生み出した大事な知恵の一つであり、この地球社会で生きるとき、人としてのあり方を照らしてくれる哲学であり、思想の一つである。そのため、利権や私利私欲に儒教的権力を用いたことは本来の儒教的観念への冒涇であり、害悪そのものであるため、時代や社会に見合った儒教のあり方の模索が必要である。本稿の中で東アジアの共通課題について指摘したように、東アジアで希薄になりつつある相手への配慮の愛（仁・義）を取り戻すための儒教の長所を伝え発展させ、‘ひと’と‘自然’と‘テクノロジー’が調和する平和的共生社会の秩序のために叡智を結集することが未来社会への道標になるだろう。

### 注

- 1 李修京「アジアの美意識と化した儒教文化と韓国」『多言語・多文化社会へのまなざし—新しい共生への視点と教育』（白帝社，2008年），37頁参照。なお，後述する朝鮮儒教や現代韓国社会の課題では，拙稿の「アジアの美意識と化した儒教文化と韓国」から一部の内容を引用している。
- 2 「[人文社会]フランス革命の背景には中国の思想が…」『東亜日報』2009年10月10日参照。2022年6月20日閲覧。  
<https://www.donga.com/news/Culture/article/all/20031121/8003462/1>
- 3 同上。
- 4 自らの強い意志で，欲望や邪心を抑えて礼儀を正しくすること。己に克ち礼に復るとする仁の精神を説いたもの。「imidas」2022年10月26日閲覧。<https://imidas.jp/fourchars/detail/X-01-S-10-4-0005.html>
- 5 1919年5月4日に中華民国で起きた反帝国主義・反封建主義への抗議運動。北京の大学生数千人から始まって全国へ拡大した。
- 6 1965年の文芸作品（「新編歴史劇 海瑞罷官」という演劇と「燕山夜話」「三家村札記」という新聞のコラム）に関する思想的論争を発端に，大権力闘争に発展した文化大革命の時，毛沢東と文革派として権力を握っていた林彪（リンヒョウ，毛沢東暗殺失敗でソ連に逃亡中，飛行機墜落で死亡。撃墜説あり）が起こしたクーデター（71年）の失敗で失脚し，林彪グループが壊滅した後，文化大革命の失敗を意識し始めた毛沢東は軌道修正を試みるが，張春橋，姚文元，王洪文，江青（俳優から毛沢東の第3夫人へ，毛沢東の死後に逮捕され，服役中の91年に自殺）の四人組が権力を掌握し，儒教的色彩が強く残っていたとして林彪と周恩来を孔子や孟子に例えて批判した。この「批林批孔運動」による江青らの執拗な攻撃は，76年の周恩来の死後，民衆の恨みとともに歴史の審判を受ける一因となった。
- 7 「全世界の『孔子学院』の退出傾向の中，韓国だけが無風地帯」『週刊朝鮮』2021年6月24日記事参照。2022年10月28日閲覧。<http://weekly.chosun.com/news/articleView.html?idxno=17545>
- 8 2021年現在，韓国居住の中国籍朝鮮族人口は70万人。『朝鮮日報』2022年1月19日。2022年10月30日閲覧。[https://biz.chosun.com/international/international\\_general/2022/01/19/7Y4XIPB6X5HKLCM7ZV2SJYBRKI/](https://biz.chosun.com/international/international_general/2022/01/19/7Y4XIPB6X5HKLCM7ZV2SJYBRKI/)
- 9 「孔子学院の情報公開促す 「中国のスパイ機関」文科相，設置大学に」『産経新聞』2021年5月13日インターネット版。2022年10月28日閲覧。<https://www.sankei.com/politics/news/210513/plt2105130007-n1.html>
- 10 同上。
- 11 国立教育政策研究所「2023年8月17日閲覧。<https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/#PISA2022>
- 12 1984年に発行され，2007年に発行停止となった5000円札の主人公の新渡戸稲造は日本の教育者，思想家である。1862年に岩手県盛岡市生まれ。1933年にカナダで他界。十和田市・花巻に新渡戸記念館があり，カナダ・バンクーバーにあるブリティッシュコロンビア大学（UBC）内にも新渡戸記念庭園がある。筆者は2013年にUBCで開催された国際学術大会の参加のため，学内のホテルで一週間ほど泊まったが，学内の庭園近くには儒教関連のモニュメントも設置されており，東アジア文化に触れやすいキャンパスであったのが印象的であった。
- 13 湊晶子「太平洋の橋となった教育者・平和主義者 新渡戸稲造」植木武編『国際社会で活躍した日本人』（弘文堂，2009），51～52頁参照。
- 14 前掲，李修京「アジアの美意識と化した儒教文化と韓国」『多言語・多文化社会へのまなざし—新しい共生への視点と教育』，40頁参照。
- 15 同上。
- 16 史跡湯島聖堂のウェブサイト参照。2022年10月30日閲覧。<http://www.seido.or.jp/yushima.html>
- 17 小葉田淳ほか『日本史辞典』（数研出版，1963），124頁参照。
- 18 呉震「戦後日本の学界における「儒学の日本化」問題についての考察」『国際哲学研究』第5号，2016年3月号，108頁。
- 19 王敏「儒教観に対する日中韓の違い」『Nippon.com』2012年11月21日。2022年11月2日閲覧。<https://www.nippon.com/ja/column/g00072/>
- 20 梨花女子大学校韓国文化史編纂委員会編『韓国文化史』成甲書房，1981年，60頁参照。
- 21 2022年現在，韓国籍の人口51,439,038人であることに對し，在留外国人数は2,245,912人で，国籍としては中国・ベトナム・タイ・アメリカの順になっている。韓国法務部HP参照。2023年8月23日閲覧。<https://www.moj.go.kr/moj/2412/subview.do>
- 22 もちろん，この背景には外国に繋がる国の構成員（外国出身住民等）との共生基盤が整っていないまま受け入れたことにその端を発するといえる。

- 23 小川晴久「儒教」『朝鮮を知る事典』（平凡社、1986）、191頁。
- 24 高麗・朝鮮時代の支配身分層。文班と武班の両班を指す。
- 25 経世済民的側面（治人）と精神陶冶的側面（修己）の二面を持つ。同上。
- 26 東人に李退溪派が、西人に李栗谷派が学説争いを行うなど、権力者による政権主導権争いが多かった。
- 27 前掲、小川晴久「儒教」『朝鮮を知る事典』、192頁参照。
- 28 朱子学を守りカソリック教を排除しようとする動き。
- 29 前掲、小川晴久「儒教」『朝鮮を知る事典』、192頁参照。
- 30 特に男子優先であったため、長男の役割も存在力も大きかった時代であり、最近まで長男の役割が社会的に求められることが多々あった。
- 31 日本では職場における男女差別を禁止し、昇進や昇給などを平等に対応する法律として、1985年に男女雇用機会均等法を制定している。韓国では1987年10月29日に男女雇用平等に関する法律を制定し、1988年4月1日から施行された。2007年に全文改訂作業を経て、2022年からは「男女雇用平等と仕事・家庭の両立支援に関する法律」（男女雇用平等法と省略）として施行している。
- 32 内閣府男女共同参画局公式ウェブサイト参照。最終閲覧は2023年8月23日。[https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2022/202208/202208\\_07.html](https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2022/202208/202208_07.html)
- 33 本稿の朝鮮や韓国における儒教について、次の拙著から一部を参考・引用している。李修京「アジアの美意識と化した儒教文化と韓国」『多言語・多文化社会へのまなざし 新しい共生への視点と教育』（白帝社、2008、pp.37～53）。
- 34 子どもの教員関連の激しい活動をする教育ママを、‘Mom虫’（mamチュン）と比喻するほどその動きが社会的に注目されており、SNSによるグループトーク（Momカフェ）での試験や学習関連の情報共有だけでなく、学校や教員への苦情を過熱させる場にもなっている。
- 35 2023年7月～8月の間、保護者が自分らの職業や学歴を威張り、教員に威圧的暴言を吐く事例がニュースで多く取り上げられた。一例だが、①8月1日にニュースになった出来事。4年前、妊娠中であった幼稚園の子どもの担任に電話をかけた母親が、自分の学歴（一流大学のK大学院出身。実際はK大学院中退）を強調しつつ、担任の学歴を見下げたり侮辱する録音内容が話題。②‘○○の父親だが、俺が誰かわかるだろう？江南の弁護士である’と威張る父親から学校暴力相談担当の教員に威圧的連絡を続けたこと。その担当教員は執拗な苦情連絡などで苦しみ自殺。③ソイ初等学校の23歳教員を自殺に追い込んだ児童の保護者の父親は検察捜査官、母親は警察幹部であることが明らかになる。彼らの連絡内容などを捜査すべき警察当局は自殺教員の私生活が自殺の理由だとし、事件を隠蔽しようとしているが、各紙からの暴露・告発記事が相次いでいる現状。関連ニュースは②『Nate news』2023年7月23日参照。同年8月24日閲覧。<https://news.nate.com/view/20230723n03871> ③「서이초 ‘갑질’ 엄마는 경찰 수사관, 아빠는 검찰 수사관」『SISAIN Today』2023年8月23日記事参照。同年8月24日に最終閲覧。<http://sisain.net/View.aspx?No=2918989>
- 36 「서이초 ‘갑질’ 엄마는 경찰 수사관, 아빠는 검찰 수사관」『SISAIN Today』2023年8月23日記事参照。同年8月24日に最終閲覧。<http://sisain.net/View.aspx?No=2918989> なお、個人携帯番号の露出を恐れているB先生に対し、学校側は新しい番号の電話に替えるように指示しただけで、保護者に対する何の対応はしなかったという。
- 37 韓国の2000年度の教育部調査統計によると、予備校や学習塾にあたる‘学院’は57,935校であり、受講者数は3,412,000人である。80年代以降の経済成長とともに学院数が急増している。李修京「韓国の教育事情」『季論21』第3号、2009年1月号、144～155頁参照。
- 38 KBS-TV 2016年9月8日ニュース参照。2023年8月24日最終閲覧。<https://www.youtube.com/watch?v=dUGu92ul4oU>
- 39 「酒の歴史でみた飲酒文化」『統一ニュース』2007年7月5日ネット版。2022年10月5日閲覧。<https://www.tongilnews.com/news/articleView.html?idxno=73486>
- 40 同上。



## 동아시아의 유교의 움직임과 한일사회의 유교 문화 소고(小考)

이 수 경\*

아시아 언어·문화 연구 분야

(2023년 8월 30일 접수)

### 요 지

도덕적 규범을 중시하는 유교는 동아시아 지역의 사회나 가족 제도에 큰 영향을 미쳤다. 무사나 문사의 인의·신뢰를 관철하는 것이나 청렴결백 사상을 미의식으로 삼으며 유교나 유학 정신에 의한 융화적 문화를 공통 인식으로 삼아 온 동아시아 사회에서 종교 분쟁을 볼 수 없는 것은 그러한 움직임이 작용해 왔다고도 지적할 수 있다. 도덕적 관념을 군자의 미덕으로 확장시켜 오랫동안 그 덕목이 지배엘리트의 규범적 개념으로 수용되어 온 유교는 한반도와 일본을 포함한 동아시아는 물론, 18세기의 프랑스나 독일 등, 서구의 계몽 사조에도 영향을 미치고 있다. 그러한 영향은 사회 전체에 강하게 작용하게 되는데 특히 계급사회 및 세대간, 성차 등에 있어서는 유교문화로 인한 다양한 폐해를 남기면서 심각한 사회 문제가 되기도 한다.

이 글에서는 유교 문화를 개괄하면서 교육 및 젠더에 대해서도 언급해 보기로 한다.

**키워드** : 동아시아, 유교문화, 사상, 철학, 교육, Global Gender Gap

---

\* 도쿄가쿠게이대학 외국어·외국문화연구강좌 아시아언어·문화연구분야교수 (184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1)

## 东亚的儒家动向与关于韩日社会‘儒家文化’的小考

李 修 京\*

亚洲语言・文化研究领域

(2023年8月30日受理)

### 摘 要

本文旨在概述东亚社会根深蒂固的儒家文化，提炼并重新确认韩国和日本社会中残留的部分儒家倾向。

重视道德规范的儒家思想对东亚的社会和家庭的制度产生了重大的影响。武士，文人贯彻执行以仁义・信任・清廉为美，儒家所提倡的融合文化的共同认识扎根在了东亚。这也使宗教纷争从未在东亚在历史上发生。

儒家思想长期以来被统治者精英所接受，将道德观念延伸为君子之德，不仅影响了包括朝鲜半岛和日本在内的东亚地区，也影响了18世纪法国，德国等西方的启蒙思想。然而，由于儒家文化所形成的阶级社会和对男女老少的影响，在另一方面也留下了许多弊害。本文将概括儒家文化的同时，言及教育和性别方面。

**关键词：**东亚，儒家文化，思想，哲学，教育，Global Gender Gap

---

\* 东京学艺大学 外国语・外国文化研究领域 亚洲语言・文化研究领域教授 东京学艺大学大学院 联合大学 教育学研究与语言文化系教育 领域 (184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1)

## A Study of the Influence of “Confucian Culture” in East Asia, Especially in Korea and Japan

YI Sookyung\*

*Asian Languages and Cultures*

(Received for Publication; August30, 2023)

### Abstract

This paper provides an overview of the persistent influence of Confucian culture in East Asia and reexamines some of its remnants in contemporary Japanese and Korean society. Confucianism with its emphasis on moral codes has greatly influenced social and family systems in East Asia. The samurai (bushi) and the literati (bunshi) regarded humane justice and trustworthiness as well as the spirit of integrity as aesthetic values, while civility towards others was upheld as a virtue. Such principles seem to have contributed to the absence of religious conflicts in the East Asian region, where the spirit of Confucianism has become a common basis for a harmonious culture. Confucianism, which expanded the concept of morality as the virtue of the wise and whose virtues have long been accepted as the normative concept by the ruling intellectual class has influenced not only East Asia, including the Korean Peninsula and Japan. It has also influenced the Enlightenment, philosophy and thought in the West, such as France and Germany in the 18th century. However, the class society and generational and gender gaps formed by Confucian culture had many negative effects on social conditions regarding generational and gender differences. This paper also considers the influence of Korean and Japanese Confucian culture on education and gender.

Keywords: East Asia, Confucian culture, ideology, philosophy, education, Global Gender Gap

---

\* Tokyo Gakugei University (4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501, Japan)